【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】令和2年11月12日(2020.11.12)

【公開番号】特開2020-152061(P2020-152061A)
【公開日】令和2年9月24日(2020.9.24)
【年通号数】公開・登録公報2020-039
【出願番号】特願2019-54980(P2019-54980)
【国際特許分類】
Ｂ４１Ｊ　21/00　　(2006.01)
Ｂ４１Ｊ　3/36　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｂ４１Ｊ　21/00　　Ｚ
Ｂ４１Ｊ　3/36　　Ｔ

【手続補正書】
【提出日】令和2年9月23日(2020.9.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６２】
以上では、印刷装置１に入力するキャラクタとして“ＳＡＬＴ”を例示したが、他のキャラクタが入力されてもよい。例えば、ステップＳ１１でキャラクタ“ＳＵＧＡＲ”が入力された場合であれば、図１７に示すキャラクタ７３を含む印刷データ７２が生成される。印刷データ７２に基づいて印刷を行われた熱収縮チューブＴを対象物５０に密着させて収縮させることで、図１８に示す熱収縮チューブＴ２を得ることができる。また、例えば、ステップＳ１１でキャラクタ“ＶＩＮＥＧＡＲ”が入力された場合であれば、図１９に示すキャラクタ８３を含む印刷データ８２が生成される。印刷データ８２に基づいて印刷を行われた熱収縮チューブＴを対象物５０に密着させて収縮させることで、図２０に示す熱収縮チューブＴ３を得ることができる。また、例えば、ステップＳ１１でキャラクタ“醤油”が入力された場合であれば、図２１に示すキャラクタ９３を含む印刷データ９２が生成される。印刷データ９２に基づいて印刷を行われた熱収縮チューブＴを対象物５０に密着させて収縮させることで、図２２に示す熱収縮チューブＴ４を得ることができる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６４】
上述した実施形態では、対象物５０を見る方向について言及していないが、対象物５０を見る方向によってキャラクタの形状は変化する。例えば、図２３に示すように、対象物５０を径方向Ｄ１から見た場合には、長さＬ２の熱収縮チューブが長さＬ２ａに見える。従って、熱収縮チューブに印刷されたキャラクタも軸方向について（Ｌ２－Ｌ２ａ）／Ｌ２の収縮率で収縮して見える。この収縮はキャラクタ全体に対して一定に生じるため、収縮率が０に近い場合には無視してもよい。ただし、収縮率が大きな場合には、印刷データ生成時に考慮することが望ましい。例えば、対象物５０を軸方向Ｄ２から見る場合には、長さＬ２の熱収縮チューブに印刷されたキャラクタが１から離れた収縮率（Ｌ２－Ｌ２ｂ）／Ｌ２に収縮される。この場合は、見る方向に依存した歪みを補正するため、収縮率か

ら算出される拡大率Ｌ２／Ｌ２ｂをさらに乗じて印刷データを生成することが望ましい。